





りつゝ
法持のちり太良の教を授けて
つとむのつら書まの西の丈寺
ふんてなま書はあな
お山のあまのちよゆる龍田
きよきりく
龍田のよきりく
ふま
あま
あま
あま

あまのちり太良の教を授けて
つとむのつら書まの西の丈寺
ふんてなま書はあな
お山のあまのちよゆる龍田
きよきりく
龍田のよきりく
ふま
あま
あま
あま

さういふ思ひありたる龍田川紅雲を
もて流るるがら及錦平も後
さしより^上さきより^下の思ひも中^中
乃事平はさういふ雲の秋も数うして
錦もさきよりさういふ事^事は
錦平も絶あしとあるがら平^平
ねとありまもあらずさういふ事^事

苗社の社神の祀りもあし

白^白附^附はさきよりさういふ事^事
さういふ事^事はさういふ事^事
比もさきよりさういふ事^事
さういふ事^事はさういふ事^事
さういふ事^事はさういふ事^事
さういふ事^事はさういふ事^事
さういふ事^事はさういふ事^事
さういふ事^事はさういふ事^事
さういふ事^事はさういふ事^事
さういふ事^事はさういふ事^事

さういふ事^事はさういふ事^事
さういふ事^事はさういふ事^事
さういふ事^事はさういふ事^事

予
 錦ありて秋ありて又甲絶しと
 謂きる成ともし 龍田の
 帝の決製とて家隆の手
 龍田の紅葉とつる秋
 了れも中も後とし 龍田の紅葉とつる秋

秋ありて龍田の
 予 龍田の紅葉とつる秋
 徒も紅葉とつる秋
 中絶して人きりありて
 予 龍田の紅葉とつる秋
 予 龍田の紅葉とつる秋

廿

是ハ觀キテハ。朔ツキ非ハ。伊カ美シノハ。由リ也
 道ミチヲ。人ヒトノ。ノ。シ。意イノ。カ。カ
 清キヨ供ケト。宮ミヤヲ。守モリル。ハ。ウ。セ。ル。ノ。ウ。ク。ク。
 是コノノ。龍リウ田テンノ。朔ツキ非ハ。早ハヤキクハ。入イレ。入イレ。
 夕ユフノ。ハ。おオノ。作サシ。カカ。キキ。カカ。モモ。モモ。
 比ヒハ。霜シユウノ。月ツキ。あアレ。はハ。みミ。とト。ノ。指サシ。意イ。
 冬フユ。レ。シ。モモ。シシ。キキ。シシ。キキ。社シャ。頭カウ。乃ニ。

カカ。ンン。ノ。イイ。ノ。盛セイ。あア。ル。モモ。多タ。ラ。一一。ニニ。シシ。カカ。
 今イマ。是コノ。ハ。古コ。非ハ。本ホ。キキ。ノ。ウウ。カカ。キキ。作サシ。
 當トウ。國クニ。之ノ。輪リン。乃ニ。朔ツキ。非ハ。ノ。非ハ。本ホ。ノ。枝エ。あり。
 當トウ。社シャ。ハ。紅ベニ。キキ。トト。ノ。メメ。テ。給タマ。フ。ヨヨ。クク。ノ。紅ベニ。葉エフ。
 之コノ。非ハ。本ホ。トト。あア。ル。幼コウ。シシ。キキ。セセ。ル。早ハヤ。キキ。カカ。リリ。
 カカ。モモ。我ガ。國クニ。ニニ。あア。ル。事コト。トト。曰イハ。ス。日ヒ。ハハ。ママ。シシ。此コノ。
 中ナカ。非ハ。ママ。シシ。ノ。事コト。乃ニ。ウウ。難ナガシ。クク。ナナ。ル。和ワ。境キョウ。
 二

同慶の結縁のりめは相成道ハ利物
 乃終り 下美野
 下紅城記
 非うは和光乃影のせりて我
 を身り 上美野
ウカサ
 ぬさぬ物への行ありある然るあして
 少き ウカサ
 けら ウカサ
 龍田乃屋ハ

侯ありきくげ音も程は海なる
 タネ ウカサ
 行子龍田同しかり ウカサ
 龍田同し ウカサ
 神をかり ウカサ
 だ ウカサ
 し

我々まこと此神乃龍田姓を新
ありと物業もあつたはるなり
てこれより井乃神と云ふ
土壇の戸に甲申用は殿
きりく 神の由あり
通及て 吉と云ふ
神をさしきりく

神を非乳を受給り砂と清し
龍田乃 神殿をきりく鳴御
てきりくつる人も 引明乃
見もし尖りなり 和光同塵
さつりもあきるなり
かやまきりくありたり神あり
我初初たりあり

龍田の山も動きし海邊もあ
 静まきだりし秋乃色は
 龍田の山もお波多り然
 伐り平人しを清くもみ
 葉乃就田の山乃朝霞ま
 あらねももだく紅もよ
 きりりり龍田乃櫻をさ
 龍田の山も動きし海邊もあ
 静まきだりし秋乃色は
 龍田の山もお波多り然
 伐り平人しを清くもみ
 葉乃就田の山乃朝霞ま
 あらねももだく紅もよ
 きりりり龍田乃櫻をさ

わたしの歌はこれあま
 龍田の山も動きし海邊もあ
 静まきだりし秋乃色は
 龍田の山もお波多り然
 伐り平人しを清くもみ
 葉乃就田の山乃朝霞ま
 あらねももだく紅もよ
 きりりり龍田乃櫻をさ

一 畧谷ノ下口ニ敷地ノハ喜提
 二 吊下口ニヤト思ハク九重ノ雲
 三 井ヲ出ク以月ノク南子ニ
 四 車ニ渡シ山崎ヲ打ニテ池
 五 水田ノ浪ニヤト思ハク浦一畧
 六 谷ニシテ思ハクヤト思ハク
 津ノ左ノ一谷ニ思ハクハ海ノ七ノル

一 候今ノ入ルニ思ハク出テ思ハク
 二 物ノ入ルニ思ハク思ハク思ハク
 三 一人ニ思ハク思ハク思ハク
 四 思ハク思ハク思ハク
 五 思ハク思ハク思ハク
 六 思ハク思ハク思ハク
 七 思ハク思ハク思ハク
 八 思ハク思ハク思ハク
 九 思ハク思ハク思ハク
 十 思ハク思ハク思ハク

浦島太郎

海の中へ

推歌牧笛

舟の音

女子の歌

梅

樵子牧笛

草刈り

舟

舟

舟

舟

舟

舟

の塩水の海士の焼又キ一一一思二一

申申丙も入あまのあまのあまのあまのあ

給下よ下法下文下一下人下一一一

ぬ下あ下そ下も下こ下一一一あ下ぶ下の下故下と下う下又下成下る下

告下し下て下し下て下し下て下一一一あ下り下た下る下十下入下念下一下り下も下

み下一一一あ下ま下あ下つ下女下一一一申申丙中中十下入下念下を下授下

上上一一一あ下ま下あ下つ下女下一一一あ下ま下あ下つ下女下一一一

申申丙上上一一一あ下ま下あ下つ下女下一一一あ下ま下あ下つ下女下一一一

き下一一一南下無下門下弥下陀下佛下一一一若下我下成下佛下十下の下

世界下へ下念下似下象下目下柄下取下不下捨下一一一若下我下成下佛下十下の下

給下心下あ下ま下あ下つ下女下一一一あ下ま下あ下つ下女下一一一

毎下日下あ下ま下あ下つ下女下一一一あ下ま下あ下つ下女下一一一

中下一一一あ下ま下あ下つ下女下一一一あ下ま下あ下つ下女下一一一

申申丙上上一一一あ下ま下あ下つ下女下一一一あ下ま下あ下つ下女下一一一

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

十終
教盤
蓮花は御歌あてのちりきり
ひくきりもゆる跡もひくきた給

夕顔

曲山本相子
位宗君

余傍公奉

序成

甲内
是の豊後国より出たる僧あり作
扱も松浦箱崎乃ちりひし勝
たるものしを共程も名高き男あり
まの母と思ひ洗羽都よりりて
今白もまゝ立出佛国よありやと
思ひ作 書かざる教よせりまら前
頁

まづもたぐりえきる雲の林
夕白鬱うつろふ秋草の花
野をめぐり賀茂のやしろ
宿の在屋の月やあけぬや
きりか降あさり乃りりや
きぬ可まき書ねとびく

きぬく 白鳥程小 是のちや降のた里

そそ有きまはりまああ乃屋
より女の手をひきぬきし作

志 中 相待待ねもやとねん
山乃 上 月乃 下 雲を
地まらふ陽曇乃 上 山乃 下 雲を

夕顔

湘江乃雨多きしくも楚班乃竹を
カサ 濡るもかき 涙多きもはれ
可も名もあつさるる新端の昔の
草多きよかしく多き宿を装式部
筆乃あまもたあまの院中
りり書直しよもたきと平も
ゆも執心乃いりも音も捨

下三

あまのりともあれはうも
かきあまのりも雲をかく
あまのり乃のまは真如乃月を晴
あまのり乃まはあまのり乃
高 なるよ是成女はよ事乃
高 何のあまのり乃
高 何のあまのり乃
高 何のあまのり乃

拙いし〜より名ふたれありとみるよ
 我も豊なみの國の者ぞおつらの
 けかりともあてしと又タウまらづの
 海舟の世語りさかちりぬやんぬを
 及良あふ〜も〜も〜も
 海舟のあり〜言葉幽艶と〜や〜
 ち〜理海〜も〜た〜り〜を〜い〜る〜も

日〜の〜書〜程〜心〜を〜す〜し〜め〜て〜ま〜す〜
 深〜し〜誰〜の〜か〜り〜も〜も〜語〜つ〜た〜ん
 中〜も〜此〜の〜教〜乃〜卷〜る〜こ〜し〜も〜脚〜ま〜て
 あり〜れ〜あ〜る〜情〜の〜道〜も〜清〜く〜下〜の〜琴〜
 今〜に〜六〜條〜乃〜思〜所〜も〜通〜る〜よ〜
 も〜ろ〜の〜字〜し〜中〜富〜も〜
 玉〜子〜の〜た〜より〜も〜あ〜る〜
 御車あつ

もつあやめもたぬわらひのふ家
 かしら行乃つ海は峻河くたる花の
 名をえあひのみつ夕魚乃打も
 けとある人のあつ色白霧の情
 言の味をあらと尋
 扇の色もまじは秋の
 琴りとあひつる海自乃みらるる

秋の日やも書きて青のまらるる
 少少柳の松のひきもわらひ
 風了またなをせり火のまじら
 思ふもてあはれは玉
 ちのりく人あふまはるる

味あつるも此世の計づらあ

かりきる蜂蝶乃命無たらるる

露の清やすき本れまの世語を
 可きてあつらひぬる見ゆ
 寂もさのつらる氣疎秋乃病るや
 ちりそ早池水草まらつて
 かりたる松の櫃くく女まら
 こく鳥ののり色伊なまらわら
 けり伊あすくちり

珍ひし女心乃水ハ湧り江みひりて
 可く女身とあれも女憂は雲の行ぬ
 道をとる中り下井上僧の入り
 契り絶ま女く女青女僧の入り
 吊ひをけり女く女僧の入り
 下女たふま女上女法華の

下世
夕顔

日

八終

たつたも 多成男子の願ひの御ま
たつたも 衣の神ま ころひ行を
つまんと云し 徳を音羽山殿乃
松乃より 明わさるる
未だもあ 薄自の通より法
あふし ありき 乃のまき 雲の
まきれよ 支よき

隅田川

兼備
序少急

甲白

是の武蔵乃國隅田川のわさ
うそいふ白き舟とあま入るを
もやと名作又此在所よまき細
大会公をりりらん同僧俗と戀ひ

人救をあつめ 且由皆を心
第男
ナリ
末を東乃松衣くひも

隅田

男河

うろたへし 加振ある者らわたり去

きく作我東より人らんとすは者

男不早

と事してゆきとあつたも スラリ 雲霧あり

を山よ都 ア 持して ア づくと ア 舞をりみり

と ア づくと ア 舞をりみり ア づくと ア 舞をりみり

隅田に ア づくと ア 舞をりみり ア づくと ア 舞をりみり

急 ア づくと ア 舞をりみり ア づくと ア 舞をりみり

て ア づくと ア 舞をりみり ア づくと ア 舞をりみり

の ア づくと ア 舞をりみり ア づくと ア 舞をりみり

乃 ア づくと ア 舞をりみり ア づくと ア 舞をりみり

久 ア づくと ア 舞をりみり ア づくと ア 舞をりみり

出 ア づくと ア 舞をりみり ア づくと ア 舞をりみり

女 ア づくと ア 舞をりみり ア づくと ア 舞をりみり

相 ア づくと ア 舞をりみり ア づくと ア 舞をりみり

隅田

一色地
破急
子遠
次物

母を侍りて彼を侍りて
 子思ふ首を味ふ
 中道に人を行く
 事あるも
 地味
 母の音す
 霧のよ
 母の音す
 霧のよ

ても明くわらさ
 經くともあらず
 商人より
 相場の開る東の國を
 下下
 思ひ子
 親心

上青
 本一りも契りかひもあつらふ世のく
 其ららさだよ縁もきく家わりのこ
 親と子の身のみききあはれや尋
 ねらるるそやらし世縁の縁と一も
 つらの中よあつら隅田のあつら
 みるくあつら我もあつら
 のきり鈴りく
 是多初より人
 都の人と
 三

かく下ろ人
 是多初より人
 都の人と
 相人との向白ぬらみきく相人
 此舟よのきき
 やも隅田の度し守あつら白も言ぬ
 舟よのまといもあつら人まわりの
 ともあつら者も舟よのあつら

甲

夕浪の 習より 業卒も あり

やあやと ともも 引きたり

人と思ふ 妻 かつかも 東よりの 子

かゝる 志を とも 同し 心乃 妻と思ひ

子と 尋ねる も 思ひ あり 徳路

あはし 種も たい さいも とも 守り 都

おろり かく づらり 子に 東路 あり 也

あやと 疑ふ かく くだり ぬはる 也

都島 都の 多と やん あり けり ぎや

あまき 行か かり けり けり の あり ぎや

あまき 行か かり けり けり の あり ぎや

あまき 行か かり けり けり の あり ぎや

あまき 行か かり けり けり の あり ぎや

あまき 行か かり けり けり の あり ぎや

あまき 行か かり けり けり の あり ぎや

女マシタ

下
ついでに舟に乗りかゝりて多き事なれば
舟中
の舟に乗りかゝりて多き事なれば

舟に乗りかゝりて多き事なれば

舟に乗りかゝりて多き事なれば

舟に乗りかゝりて多き事なれば

舟に乗りかゝりて多き事なれば

舟に乗りかゝりて多き事なれば

舟に乗りかゝりて多き事なれば

舟に乗りかゝりて多き事なれば

舟に乗りかゝりて多き事なれば

舟に乗りかゝりて多き事なれば

舟に乗りかゝりて多き事なれば

舟に乗りかゝりて多き事なれば

舟に乗りかゝりて多き事なれば

ともひつれとて洗上けつる上し
 仰上んとお上しほ上う上世上よ上の情上あ上る者上の
 洗上にら上あ上き者上を上具上ま上路上が上
 捨上く上南上人上を上奥上へ上下上して上合上去上向上の
 多上う上人上の洗上に上あ上き者上の洗上と上あ上ま上
 ぐ上右上ぎ上よ上み上の程上は上揺上く上は上痛上む上を上
 久上た上前上世上の上う上ら上も上あ上ら上む上き上し上ど上

だ上より上り上よ上ら上既上に上事上お上と上み上し上時
 だ上ら上い上つ上て上あ上る上人上を上父上の上名上を上
 せ上も上國上を上も上尋上て上久上我上の上勤上も上白上了上よ上
 ぐ上田上乃上行上事上を上し上人上乃上洗上ひ上ら上り上ま上
 ち上く上い上が上父上よ上の上母上討上ま上り上ひ上ま上ら上せ上
 け上り上と上ち上く上南上人上の上い上は上ま上して上か上げ上ん上よ上
 ぬ上り上の上勤上の上人上乃上も上千上景上も上あ上ら上し上

くして此^上痛^田乃^上過^中平^上に^上つ^上る^上難^上し^上て^上なり^上
柳^上を^上植^上く^上給^上り^上れ^上と^上行^上き^上あ^上や^上り^上人^上々^上
五^上廿^上と^上あ^上終^上よ^上と^上さ^上り^上く^上作^上あ^上じ^上
あ^上ら^上あ^上ら^上物^上語^上を^上い^上ふ^上見^上下^上を^上い^上舟^上
中^上あ^上も^上少^上と^上都^上乃^上人^上も^上は^上心^上を^上い^上ふ^上
縁^上あ^上ら^上う^上今^上終^上を^上清^上く^上し^上て^上舟^上
又^上よ^上あ^上ら^上長^上物^上語^上の^上舟^上の^上舟^上を^上い^上ふ^上

あ^上ら^上く^上あ^上ら^上い^上ふ^上男^上行^上か^上ら^上ね^上今^上は^上き^上
此^上所^上よ^上遠^上後^上は^上か^上ら^上い^上て^上縁^上あ^上ら^上う^上今^上終^上
あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上
あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上
あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上
あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上
あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上
あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上
あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上
あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上あ^上ら^上

三テハ
カケテ

とてのりまきくろ ^甲 ちよひ三月 ^女 入る

ハキハ
カケス

とてのりまきくろ ^甲 ちよひ四月 ^甲 十二歳

^甲 ちよひのりまき ^甲 梅より丸 ^甲 父のりまき

^甲 ちよひのりまき ^甲 梅より丸 ^甲 父のりまき

^甲 ちよひのりまき ^甲 梅より丸 ^甲 父のりまき

^甲 ちよひのりまき ^甲 梅より丸 ^甲 父のりまき

^甲 ちよひのりまき ^甲 梅より丸 ^甲 父のりまき

^甲 ちよひのりまき ^甲 梅より丸 ^甲 父のりまき

^甲 ちよひのりまき ^甲 梅より丸 ^甲 父のりまき

^甲 ちよひのりまき ^甲 梅より丸 ^甲 父のりまき

^甲 ちよひのりまき ^甲 梅より丸 ^甲 父のりまき

^甲 ちよひのりまき ^甲 梅より丸 ^甲 父のりまき

^甲 ちよひのりまき ^甲 梅より丸 ^甲 父のりまき

^甲 ちよひのりまき ^甲 梅より丸 ^甲 父のりまき

階日

入るを中へ依ひてな世を吊ひん
 丸
 ぼそよ月つくけ内もぢも変らぬ
 我今仏の時節あれはめくは
 吉也いそあすしきん 母を
 師のつかあはよ金珠を申さ
 してはしき師て信者なり 引て
 ちあより人にほくまを母の

ちあひ給りてはま業者もあらは
 給ふまはと也やうとを母の事なれ
 物子のためとふまの定法も佛鐘
 ちあひあぢそ 歎きを中めて法
 ちあひや 月乃良人会佛もあらは
 心多西へと一筋の南無や西方極樂
 世界二十六萬億同号同名の諸陀

善知

和^丸板も^丸れ^丸此^丸立^丸山^丸よ^丸来^丸て^丸み^丸き
ま^丸乃^丸あ^丸ら^丸成^丸ち^丸こ^丸く^丸乃^丸る^丸様^丸を^丸て
も^丸深^丸ま^丸ぬ^丸人^丸の^丸心^丸を^丸鬼^丸祚^丸より^丸祈^丸ね^丸す
ろ^丸や^丸山^丸路^丸は^丸ま^丸つ^丸ち^丸ま^丸さ^丸乃^丸板^丸多^丸く
の^丸要^丸該^丸の^丸候^丸路^丸を^丸も^丸あ^丸ら^丸ま^丸い^丸ぬ
え^丸ぬ^丸板^丸愧^丸乃^丸心^丸付^丸ら^丸そ^丸山^丸下^丸は^丸社^丸さ^丸下^丸
ま^丸き^丸れ^丸く^丸あ^丸ら^丸ま^丸成^丸は^丸僧^丸の^丸中^丸

ま^丸の^丸乃^丸板^丸行^丸事^丸ま^丸て^丸い^丸る^丸 隆^丸奥^丸
へ^丸清^丸く^丸ら^丸り^丸作^丸ら^丸言^丸傳^丸す^丸い^丸る^丸と^丸い^丸る^丸
濱^丸あ^丸ら^丸ま^丸欄^丸仰^丸す^丸い^丸る^丸者^丸の^丸ま^丸い^丸る^丸秋^丸
ま^丸ま^丸の^丸心^丸を^丸い^丸る^丸是^丸妻^丸や^丸子^丸の^丸宿^丸と^丸い^丸ふ^丸
い^丸る^丸心^丸を^丸い^丸る^丸ま^丸ま^丸の^丸妻^丸ま^丸ま^丸向^丸て^丸い^丸る^丸心^丸
行^丸は^丸是^丸の^丸思^丸の^丸心^丸を^丸い^丸る^丸あ^丸ら^丸ま^丸の^丸心^丸を^丸い^丸る^丸
の^丸心^丸を^丸い^丸る^丸ま^丸ま^丸の^丸心^丸を^丸い^丸る^丸あ^丸ら^丸ま^丸の^丸心^丸を^丸い^丸る^丸

作らるるあつしうきりてはまふしきりては
神業の作(き) ^三実徳あるはり

なつてきりてあつしうきりては ^中思ひ出さる

る世乃今うの時(正)洗刷(中)すまふの

あつしうの袖(下)を死(下)て ^宋是(下)と(下)さる

う(下)と(下)衣(下)を(下)き(下)り(下)て(下)さ(下)る

く具(下)師(下)を(下)重(下)く(下)煙(下)入(下)立(下)出(下)の(下)た(下)り(下)も

ま(下)る(下)る(下)こと(下)と(下)客(下)僧(下)ハ(下)鼻(下)下(下)れ(下)ハ(下)亡(下)者

あ(下)く(下)く(下)と(下)な(下)り(下)て(下)行(下)か(下)し(下)ま(下)り(下)て(下)死(下)す

ま(下)り(下)く(下) ^中本(下)より(下)も(下)言(下)ふ(下)は(下)あ(下)ら

世(下)の(下)習(下)ひ(下)り(下)や(下)ら(下)ぬ(下)あ(下)ら(下)ず(下)も(下)母(下)の(下)世(下)に

あ(下)ら(下)ぬ(下)契(下)一(下)恩(下)愛(下)乃(下)あ(下)ら(下)ぬ(下)の(下)結(下)ら(下)れ

あ(下)ら(下)ぬ(下)契(下)一(下)恩(下)愛(下)乃(下)あ(下)ら(下)ぬ(下)の(下)結(下)ら(下)れ

あ(下)ら(下)ぬ(下)契(下)一(下)恩(下)愛(下)乃(下)あ(下)ら(下)ぬ(下)の(下)結(下)ら(下)れ

あ(下)ら(下)ぬ(下)契(下)一(下)恩(下)愛(下)乃(下)あ(下)ら(下)ぬ(下)の(下)結(下)ら(下)れ

一のとし 神さく儼るる 是の
 諸國一見の僧さくゆる立山禪定し作
 庭よ其様もさあき若人の有りの
 陸奥へくさく言傳もくーごころ濱
 うきハ猶仰あくハ者のさびの秋才
 まのりてハ其妻子の屋ヤトを尋てぞれよ
 三の三三向てくたよし信の福ようの乃

室よしつてやさる事取のしんしん
 下くハ母をたさるあまぬる油とせ
 きて給りつてハ福よ其に持くまのり
 てハ思召つりつりハ人ハ是を夢
 ちも清まも道平ハ田長のあまハ人
 ぐハあまの涙ハ去あハ解りハ心
 行あまはるあれたハ形ハ成み乃

事ありんばなり智火の消ぬれ
 焦熱大焦熱なりんば氷産可
 去あつて汝身もたもき罪科の
 所りやもつる身もきつるを教
 高罪如霜雨露惠日の子照し給也
 清僧可い陸奥のくがくま
 ある相原のまづまきまきまき

まじりて志ある浦室の離れ海
 下屋のくまきまきまきまき
 為よるる海ありまきまき
 下母のくまきまきまき
 所く親子てまきまきまき
 水が程の家まきまきまき
 契りまきまきまきまき

善知
杉人
う
瑤
子
書

二十

謫本雜多世同依有章句
誤之亦以觀世為過太支
正本寫之并加當流秘密
之改板也

丁時貞享冬丙寅年九月言

二條通濟寺町西口入町

山本長兵衛新板





